

## 令和4年度 第1回伊勢市環境審議会 記録概要

1. 日 時 令和4年7月15日（金） 18:30～20:15
  2. 場 所 伊勢市役所 本庁舎東館 4-3 会議室
  3. 委 員  
奥村 有紀子（公共の団体：伊勢商工会議所）  
川端 利生（公共の団体：伊勢農業協同組合）  
杉田 英男（公共の団体：伊勢湾漁業協同組合）  
杉山 謙三（公共の団体：伊勢市総連合自治会）  
竜田 和代（公共の団体：伊勢市女性団体連絡協議会）  
高橋 克彦（公共の団体：伊勢市環境会議）  
上田 ふき子（公共の団体：伊勢小俣町商工会）  
山村 直紀（学識者：三重大学）  
平山 大輔（学識者：三重大学）  
中松 豊（学識者：皇學館大学）  
松永 彦次（神宮司廳）  
奥田 哲也（三重県南勢志摩地域活性化局）  
岡本 忠佳（公募）  
上野 早苗（公募）  
中村 悦子（公募）  
田岡 光生（公募）
- 事務局
- |       |               |
|-------|---------------|
| 藤本 宏  | （環境生活部 部長）    |
| 山本 佳典 | （環境課 課長）      |
| 角谷 晃  | （環境課 主幹）      |
| 阿竹 信一 | （環境課環境対策係 主事） |
| 大桑 和秀 | （環境生活部 参事）    |
| 林 歩   | （ごみ減量課 副参事）   |
| 野中 孝彦 | （農林水産課 課長）    |
| 徳田 光良 | （農林水産課 副参事）   |

## 4. 概要

### (1) 開会

### (2) 議事

#### ① 第3期伊勢市環境基本計画の進行管理について

##### ○事務局による説明

- 資料1に基づき、第3期伊勢市環境基本計画に掲げる施策の令和3年度の実績と令和4年度の実行内容について、資料2に基づき分野横断的取組の取り組み状況について説明
- 資料3に基づき、第2期伊勢市環境基本計画の重点事業における目標指標の達成状況を提示

##### ○質問・意見等

- 資料1の7ページ。農地環境の保全の伊勢市鳥獣被害防止計画に基づく獣害に強い集落づくりの体制整備支援の中で、企業や大学と連携し効果的な獣害対策を行うための実証実験を行っていくとある。三重県の鳥獣保護管理員として18年、ずっと携わっていたが、町なかでも、ハクビシンやアライグマが出ている大変な状況になっている、具体的に何をするのか教えてほしい。

⇒例えばイノシシや鹿が発見された場合に、スマートフォンのアプリを利用して、住民の方や農業者の方が情報を送信すると、それが市のパソコンに流れてきて、どこで何が出たかを確認できることによって、檻の設置や追い払いについて効果を高めていくというもの。三重大学と民間の企業と伊勢市で作っている。【事務局】

- 農地だけでなく住宅地にも、当たり前のようにハクビシン、アライグマは出ている。それも一緒に対応されるということか。

⇒現在、作りかけであり、まずは農地において獣害対策のまちづくり協議会等に協力を依頼するが、最終的には広がって市全域で活用できればと思っている。【事務局】

- 1ページの二見小中学校の太陽光発電は非常時に使用できるのか。

⇒担当の教育委員会から聞いているのは、20kWの太陽光発電を設置するという事で、一部は発電したものが、学校の施設内に供給されるような形になるかと思う。非常時に使えるかどうかについては、蓄電池は設置していないので、昼間発電したものをそのまま使うことはできるかと思うが、それをためて夜間に使うことはできないことになっていると思う。【事務局】

- 2ページの、上の段の電気バスの利用促進に関わって出前講座を考えているのか。

⇒小学生向けに企業と連携して環境教育を実施しており、小学生が横浜ゴムへ行って生物多様性のことについて勉強するプランがあるが、その際に子供たちに電気バスに乗って移動する間に電気自動車や電気バスのことを勉強してもらうプランを作っている。あとは環境フェアの時に出ていただくような形でPRを図っている。電気バスも、普段は路線の運行で外宮内宮間を往復で走っている関係であまりそういうところに使うこともできないということで、回数を限定する形で、環境教育に活用させていただいている。【事務局】

- 浸水対策をしているということだが、場所がわかれば。

⇒維持課や基盤整備課が、排水路等で支障が出てくるようなところがあったときに、改良を行うということを順次進めている。例えばポンプ場等も、予防保全の考え方で更新を行っており、壊れかけてきたから更新をするというのではなく、支障が出てくる前に計画的に更新をしていこうという形で、ポンプ場の更新等を行っている。【事務局】

- 3ページ目の①の2段目のファミマフードドライブについて教えてほしい。

⇒令和3年9月からファミリーマートと社会福祉協議会でフードドライブ、家庭で余った食品を有効的に使っていただくという取組になるが、当課としても、ごみ減量化を進めていく、食品ロスを削減させるという目的の中で、趣旨に賛同し、市民の方がファミリーマートへ持ってきていただいた家庭で余った食品等々を社会福祉協議会へ運ぶ、そういった役割をしている。去年は、345キロという重量は出ており、お米等も結構あったという話は聞かせてもらっており、食品ロスの有効活用をしている。【事務局】

- 3ページの③生ごみ処理機について補助の傾向がどんな状態になっているのか教えてほしい。

⇒これまで正直、実績が少なかったところもあった。新型コロナの影響でステイホームの状況が出てきて、令和2年度から急増しているところで、令和3年度は62基に補助を出している。【事務局】

- 6ページ①の河川、幹線排水路等の水質の変化はどんな状況なのか

⇒主要な河川は委託により環境基準に沿って調査をしている。その他の小さな河川は、職員が簡易検査キットで調査を行っている。勢田川は、下水道の整備や浄化槽の整備に取り組んできれいにはなっているものの、結果的にはまだワーストということになっている。幹線排水路は一番生活排水が入っているところで、勢田川の合流地点で注視をしている。検査キットによる調査と委託による環境基準に沿った調査を行っている。大腸菌やBODと呼ばれる汚濁物質がまだ高い状態であり、全体としては、改善には向かっているものの現状ではそういう状態である。市内にある河川としては、例えば宮川は最もきれいな川の一つとして、注視していかなければならない。また、勢田川については、今しばらく皆さんにご協力いただいて、水質改善に取り組んでいかなければならないという状況である。海域については、最近伊勢湾の温度も上昇しているということだが、特に油が浮いている等がないように注視を行っている。【事務局】

- 7ページ、自然との共生に関わって環境課で実施しているいきものログについてどんなふうに考えているのか

⇒主に市内の河川で、環境会議と連携して、基本的に毎月1回を目指して、事前にかごを入れ翌日に引き揚げて、生き物を捕獲して調査をしている。いろいろな生き物が増えてくることによって、河川の水質の状況を把握している。徐々にきれいになっているものの数値には表れにくいところがあり、生き物が増えてくることも一つの指標として考えているので、今後も月1回を目指して、できる限り続けていきたいと考えている。本調査結果については毎回、ホームページで公表している。【事務局】

- 3Rの推進のマイボトル・マイカップについてどんな訂正が行われたのか教えてほしい。

⇒庁内アンケート実施のところで、人数に誤りがあったため、911人を991人に訂正した。職員に日頃職場に来るときには水筒を持参しているかなどについて聞き取りした。マイボトル・マイカップ運動は、使い捨てるプラスチックごみを削減していこうという目的で、3Rの中の発生抑制に対しての取り組みとして実施している。現在、市内の各事業者を回っているところで、賛同していただける事業者を増やしていきたいと思う。【事務局】

- 専門が森林分野なので、それにかからめて少し感想を述べさせていただく。最近、山に太陽光パネルを設置するときに必要な林地開発許可の対象を1ha以上から半分の0.5haにしようという検討が進められているようである。木を切ってパネルを設置すると土砂の流出を招くこともあり、メリットだけでなく、デメリットもあるということだそう。伊勢市でそのような案件があるのかどうか分からないが、もし木を切って太陽光パネルを大規模整備するような案件があった

場合は、慎重にというか十分にやられた方がいいのではないかと思います。

あともう1点は、先ほど獣害の話があったが、鹿の捕獲等は、適正密度に対して現状が何頭ぐらい密度が多いかを分かった上で、適正密度とまだ開きがあれば捕獲はどんどん行って、適正密度に近づいてきたら捕獲はやめてもいいと。目標数値が他の分野でもあったが、鹿の捕獲等についても可能であれば、生息密度との関係で、できるだけ客観的に取り組んだ方がよいと思う。あくまで感想だけのため回答は不要。

- 1ページの温室効果ガスの排出のところで公共施設への太陽光等の再生可能エネルギー機器の導入の取り組みの中で、考え方を聞きたい。今回は二見の新たな施設に対しての話であったので、施設への取組を何年からしているか。新しい市民病院にはあるのかないか聞きたい。

⇒伊勢市では、2000年ぐらいから小中学校に太陽光発電を設置している。また施設を建設する際には配慮するというので、産業支援センターや、コミュニティーセンター2か所、保育所、小俣保健センターなどに太陽光を設置している。伊勢病院については、2018年度に新たな病院を建設したときに30kWの太陽光の設置をしている。【事務局】

- 小学校と中学校へのLED照明工事について、次年度以降も体育館へ順次考えていくということであれば、例えば、300万の電気代が100万になったというような形で、もし実績を書けるなら来年からはそのような形にしてもらえるとありがたい。

⇒令和3年度は小中合わせて6校の体育館をLED化した。今年度についても担当に聞くと、小学校4校、中学校2校の6校を予定している。来年度以降も、まだ出来ていないところであったり、校舎のLED化等も考えていく必要があるということだった。どれだけ電力消費量が減ったかという実績については、確認がとれていないので、もし可能であれば、次回の環境審議会のときにお示しできればと思う。【事務局】

- 7ページの水生生物の水質調査等の野外環境学習の開催で、申込がなかったということだが、代案はあるのか。小さい子供のうちから環境のことを教えていくのは大事なことなので、考え方があれば教えてほしい。

⇒いろいろな生き物がいるところで実施をしたいと思い、矢持をずっと会場として考えてきた。会場まで参加者をバスに乗せて行く方法をとっていたが、それがなかなか難しい状態で、利用者がなかったのではと思っている。勢田川はいい教材。親からすれば自分たちが小さい頃きれいでなかったところが、今は上流の三重県の伊勢庁舎の方はとてもきれいでいろんな生き物が捕れ始めてい

る。子どもたちに集まってもらいやすい所で実施してはどうかと考えている。

**【事務局】**

• 大学でもコロナがはやってくると、全て中止やオンラインにするという考え方でやってきた。しかしながら、ウィズコロナということで新たな枠組みを考えなければいけないときになったと思っている。その中で、今後、市としてもただコロナだから中止ではなく、コロナ禍だが可能な限りやっていくという考え方が必要じゃないかと個人的には思う。

• 基本目標2の「資源を大切に作る循環型社会の構築」のごみを出さないライフスタイルというところで、具体的な取り組み内容の中にないが、今後新しい施設の建設も計画される中で、生ごみの回収やそれを資源化する方法の検討は、まったくされない状況か。

⇒ごみの成分の中で、やはり生ごみが極めて大きい。水分を水切りすることによって、ごみの減量化にもつながってくるため、これから重視して取り組まなければならないと思っている。家庭一人一人、市民一人一人のごみの分別意識、減量意識の向上が基本なので、生ごみを各家庭においてひと絞りする意識を持ってもらえるような啓発を行っていきたいと思う。【事務局】

• 草や剪定の枝の資源化に加えて落ち葉も入れていただきたい。土を作るには落ち葉を入れるといいので、生ごみの回収等と一緒に合わせて、自然の力で土壌菌によって堆肥化してもらえるようなものももしできれば一番いいと考えている。また、紙おむつ等のリサイクルについて今後検討されるのかどうか。

⇒紙おむつや剪定枝等も先進地では展開されていると聞いている。県外他市の状況を研究すると、大手の企業や協力していただける企業があっただけでまかりなっていると聞く。研究を深め、協力いただけるところがあれば協力を求めていきたいと思うし、自分たちでどういったことができるか引き続き研究していきたいと思う。

**【事務局】**

• デポジットやリターナブルびんの導入について、社会的にも事業所がとにかく動きかけている。地元の企業で生産しているところもあると思うので、伊勢市としてそちらを進めていくのがいいのではないかな。

⇒これから研究していきたいと思う。【事務局】

• 飲食業をしていて感じるのは、お客様がたくさん残して帰るという部分。そこから少なくすれば生ごみも減らせるのではないかなと思う。食べ残しをしないことをお客様にアピールしながら少しでもごみを少なくしたいという思いは常に持

っているがなかなかできない状態にいますので、これをどうすればいいのか意見を聞かせてほしい。

⇒食品ロス削減のなかで、特に飲食店については食べきり応援店という制度を設けている。例えば、飲食店で小盛りメニューにしてもらう、事前に申告をすれば食べられる量に応用を効かせてもらえる、食べ残したものの持ち帰りをさせてもらえるのが食べきり応援店。現在、市内では46店舗に協力いただいている。また、宴会や忘年会で推進しているのは、3010運動。最初にはしっかり食べるということと残りの10分にも食べる時間を設けてしっかり食べて帰ってくださいという展開もさせてもらっている。これからも事業者にも協力していただきたいと思っているので、啓発をしっかり進めていきたいと思う。【事務局】

- 分野横断的取組の空き家対策の推進について、令和3年度の1251件の空き家対策というのは、どんな中身なのか次回聞かせてほしい。

## ②第3期伊勢市環境基本計画の改定について

### ○事務局による説明

- 資料4に基づき脱炭素社会をめぐる国内外の動向について、資料5に基づいて計画改定の考え方について、資料6に基づいて改定のスケジュール案について説明

### ○質問・意見等

- 伊勢市の電力調達でカーボンオフとかそういうものは、検討しているのか。

⇒現在は中部電力との契約で電気供給を受けている。現在検討段階であり、中部電力が再生可能エネルギーの提供もしているため、そちらを検討することになると思う。新電力については、一番大事な安全性の部分で課題もあることから、公共施設の電力調達については安全第一で検討している。【事務局】

• 目標の指標について、数値目標だと都合が悪いものが幾つかあると思う。例えば、路線バスの利用者は観光客の影響をかなり大きく受けるため、観光客がこれに対して、じゃあこれだけの利用者を増やしましょうという、何割ぐらいが利用するよという目標を掲げた方がいいと思う。未利用食品もそう。母数が変わるものに関しては、割合で示していかないと本当に目標達成できるかどうか分からないというのが一つ。

もう一点は、どれだけの二酸化炭素を減らすことを、それぞれの取り組みで目標としているのか、ある程度これぐらいは下がるのではないかと、概算でも見積もれたらよいと思う。

⇒まず、割合のほうが比較しやすいということについては、ご意見を踏まえて修正を検討したいと思う。

CO<sub>2</sub>の排出量については、いろいろな算出の仕方があり、地形的な条件であったり、産業の状況によって、適切な計算の仕方がある。来年度にかけて実態の把握とともに、どんなふうに行進管理というか、考えていけばよいか把握に努めたいと思う。その上で、こういうことをしたらどれぐらいの排出は抑制できるのかというふうな議論につなげていきたいと思う。【事務局】

- 基本目標4の「歴史・文化の薫る、快適に暮らせるまちの形成」のなかで、街路樹とか公園とか歩道の樹木に、大木になる木を選定するのは考えたほうがよいと思う。計画するところにも、市として入り込める余地はあるか。

⇒昔は東西・南北によって常緑樹、落葉樹を決めていた経緯もあった。しかし、木も大きくなってくると歩道を根が盛り上げたり、枝が生い茂って死角になったり、といったこともあり、切られている所もある。課題として捉えて、現在は対応していると思う。【事務局】

- できるだけ将来のことを考えて種類を選定すると、ごみも増えないし、人件費もかからないし、考えてもらえるように配慮を願う。
- 今度の審議会には、素案が上がってきて具体的な話はそこで審議ということになるかと思う。素案作成の上で改定案をつくる考え方、それから方向性は、これでよいか。

⇒異議なし

- では、この形で進めていっていただきたいと思う。

### (3) その他

委員より環境に関する資料をご提供いただいた